

令和5年度第1回石狩市地域公共交通活性化協議会 議事録

日時 令和5年6月6日（火）15時00分～16時00分

場所 石狩市総合保健福祉センターりんくる2階 交流活動室

出席者 岸邦宏副会長、佐々木宏嘉委員、熊谷貞治委員、竹内努委員、菅田昇幸委員、山下光弘委員、平井克典委員、桑山涉委員、河合保郎委員、高真一委員、池田篤司委員、経亀真利委員、久保田貴浩委員、児玉成治委員、岩佐英世委員、柴田肇委員、小山玲子委員、渡邊恭子委員、早川真樹委員

事務局 企画課交通担当課長 上窪健一、企画課交通担当主査 江島紀和
中央コンサルタンツ株式会社 大嶋課長 堀主査

傍聴者 3名

次第

1. 開会

2. 議題

- (1) (仮称) シン・公共交通計画（石狩モビリティ2030）について
- (2) オンデマンド交通による実証運行について
- (3) 地域公共交通確保維持改善事業（令和6年度地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請）について

3. その他

4. 閉会

====審議内容の記録（審議経過、質疑、意見等）====

※ 以下の質疑・意見については、○は委員発言要旨、●は事務局発言要旨

1. 開会

2. 議題

(1) (仮称) シン・公共交通計画（石狩モビリティ2030）について（※事務局より説明）

●シン・公共交通計画策定に向けて<資料2>

【質疑・意見】

○バスの運転手確保が困難な現在、一定の需要がある中で輸送量を増やすためには、運転者を増やして台数を増やすか、又は1台当たりの輸送量を増やすか BHLSは沢山乗客が乗れる車両。しかもバリアフリー、形は路面電車のような形状。名古屋でSRT(スマートロードウェイトランジット)という形で導入の計画を立てていたり、札幌市でも路面電車の代わりに、新たな交通を計画しますという議論が始まっている。その中でも、路面電車のような大きな形状のバスを走らせられないか。石狩はずっとモノレールの議論をしてきた。その際に交通の拠点はどうなるのか。現在、石狩市の交通の拠点はどこであると言えない状況。乗り換え拠点としては、厚田の道

令和5年度第1回石狩市地域公共交通活性化協議会（R5.6.6）

の駅もある。交通の拠点がどことはいえないことから、本協議会で議論していければと思う。その中で、街づくりに使える補助金なども活用してターミナル、拠点あるいは新しい車両のための道路整備ができれば。法律と事業制度を一体となりながら計画を策定することについて皆様と議論をしていきたい。

○石狩市の交通部門ではないが、ロープウェイを札幌市と石狩市で検討することが新聞で載っていた。この交通計画について、どのような関係性か。計画に載るのか。

●再生エネルギーを札幌市に融通する際に、人間も運べないかという議論。この協議会において、皆様の意見を頂戴しながら、計画にロープウェイを盛り込むか否かを判断していきたい。

○交通過疎化になったのは人口減少に伴い、交通事業者が採算面から制約されてきたと思う。今回、計画が策定され、最低限の交通について話し合っていくと思うが、考え方として、税金をこれ以上採算が合わないところに出しませんとか考えがあるのか。

●税の再配分など、どれだけ税金を掛けれるかということになるかと思う。本市の財政規模が約300億円。それからすると、交通にかかる予算はコンマ何パーセント。ヨーロッパなどでは、数パーセントから1割に近い。本市においても、最低限の交通を保つための予算は必要。通常儲かる事業であれば、交通事業者がすでに行っているはず。そうでない地域であれば、市が「地域の付加価値」として法律にのっとり行っていかなくてはいけないと考えている。先ほどのお話で、かけられる税金の額という話は示せないが、移動に最低限の予算は持続可能な形で、協議会の皆様の意見をいただきながら、また市議会議論を経て行っていきたいと考えている。この件に関しては引き続き議論をしていきたい。

○人口的に、「どのくらいなら助ける」とか「これより減ったら切りますよ」という境はあるのか。

●厚田浜益は人口が減少しているが、引き続き住みたいという方もいる。人口的な縛りかけるつもりはない。

○今この問題は難しく、議会の承認も関わってくる。人口が一定数を下回ったら面倒を観ないという話はあるとはいけない。住民が求める交通レベルと、公共交通の運行者が確保できるか否か。確保できないのであれば住民が自分達でやっていくのか、市が委託などをするのか、こういった内容をこれから議論していくことになる。

令和5年度第1回石狩市地域公共交通活性化協議会（R5.6.6）

何人以下だから交通サービスの提供をやめるとかではなく、その人たちがどれだけ安心してそこで暮らしていけるかというサービスレベルと、その提供方策、お金の部分も見ながら皆様と検討していければというところではないか。

○スケジュールのところの意見交換会について、分かる範囲で教えていただきたい。

●具体的な意見交換会については、前回の網形成計画同様、旧石狩、厚田、浜益の3地区において、地域の方々と1日ご議論させていただきたい。

(2) オンデマンド交通による実証運行について（※事務局より説明）

●令和4年度オンデマンド交通「いつも」の実証運行について<資料2>

【質疑・意見】

○前回の実証運行から変わったことは、麻生便と手稲便のバスが変わることか。

●おっしゃる通り。

○交通結節点から石狩湾新港地域への移動はどの車両で運行するのか。

●ハイエースを予定。

○それであれば、交通結節点から石狩湾新港地域への300円は、市内オンデマンド側に書くべきではないか。

●交通結節点から石狩湾新港地域への移動については、石狩湾新港地域で働く従業員に限定する予定。

○資料を再度整理した状態で承認をしていただくことが必要ではないか。この事業は共創プロジェクトに応募するということであるが、応募が落選した場合はどうするのか。

●落選した場合でも実証運行を行う。

○実証運行において、運賃を取る場合は協議会の承認が必要であると認識しているが、その認識で良いか。

●おっしゃる通り。道路運送法21条許可をするにあたり、本協議会の承認が必要。

令和5年度第1回石狩市地域公共交通活性化協議会（R5.6.6）

○この実証運行は何月から行うのか。

●9月からを予定している。

○9月の実証運行前に、再度協議会は行われるのか。

●再度協議会を開催する。またご協力をお願いしたい。

○前回実証運行の結果を踏まえたものにしてほしい。新たなサービスの位置づけも示してほしい。

○年間どれくらい費用がかかるか、収益はどのくらいか、そこを踏まえて今後の議論になると思う。

○利用者のニーズを拾ってほしい。市内結節点を軸にして実証運行をするのであれば、交通結節点を考えてほしい。民間会社を助けるような結節点の在り方はどうか。事業者と検討してほしい。

●利用者のニーズは拾っていききたい。また、交通事業者と交通結節点についても協議をしていききたい。

(3) 地域公共交通確保維持改善事業（令和6年度地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請）について（※事務局より説明）

●地域公共交通確保維持改善事業に係る計画認定申請（令和6年度地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請）＜資料3＞

【質疑・意見】

なし

5. その他

○計画策定について何点かお願いがある。高齢者の交通事故について。通勤以外の利用者の多くは高齢者である。高齢者はアプリとか分からない。紙媒体などにも意識を向けてほしい。高齢者が待ってられるような待合所を拠点とすることで、利用を増やすことも考えられる。

6. 閉会

令和5年度第1回石狩市地域公共交通活性化協議会（R5.6.6）

令和5年7月5日 議事録確定

石狩市地域公共交通活性化協議会

会 長

小鷹雅晴

